

【2016年度 事業計画】

I 事業の実施方針

2015年12月COP21で採択されたパリ協定で、世界の進むべき方向が示されました。温暖化による被害が深刻化していくなかで、現実的に温室効果ガスの削減が、経済合理性を持つことが明らかになってきましたが、日本政府は、原発をベースロード電源とするエネルギーミックスを変える気配はありません。東京電力福島第一原発事故は、その収束に向けて、その困難さが際立ってきましたが、日本は再稼働へと動き始めてしまいました。

2016年4月からの電力小売全面自由化に向けて、続々と新しい電力会社が生まれています。再生可能エネルギーを軸とした制度が根付くにはまだまだ時間が必要と思われます。固定価格買取制度の導入から3年余り、太陽光発電の買取り価格はますます下落して、事業としては成り立ちにくくなりました。

私たちは、地球温暖化防止と共に原子力を利用しない社会をめざして、さまざまな制度をうまく活用しながら、市民の手で自然エネルギーを普及させるとともに、今まで以上に省エネ・節電を進め、様々な制度の変化に柔軟に対応しながら、当初からめざした方向に向かって揺らぐことなく「おひさま発電所」づくりに丁寧に、確実に取り組みます。

- ① 市民が関わって設置を進める共同発電所として定着してきた「おひさま発電所」を、さらに進めます。対象施設も可能な限り広げ、市民を巻き込みながら地域づくり・まちづくりにつなげます。
- ② 意識と行動の変化を促し、担い手を育てるための環境学習を、さらに充実させます。
- ③ おひさま発電所となった施設との協力、連携を活かし、地域住民へも働きかけます。
- ④ 上記の活動を達成するため、会員の拡大を図るとともに、認定NPO法人の制度を活用し、財政基盤の強化につとめます。

II 特定非営利活動に係る事業

太陽光発電設備設置事業

設置協力金、寄付、おひさま基金、補助金などを組み合わせた柔軟な仕組みで、「おひさま発電所」の設置をめざします。地域団体など他団体との連携や、避難所の整備としての観点も加え、対象施設の拡大を模索します。「おひさま基金」についても新たな協力、連携を進め、さらに基盤強化を図ります。

環境学習活動

- ① 設置施設にとどまらず、腹話術・自然観察会などのプログラムを各施設に提供します。
- ② 省エネなどをテーマとした研修会を実施します。
- ③ 環境学習等の機会をとらえて、おひさま発電所見学会を開催します。

広報活動

- ① ニュースレターの発行

年2回程度発行し、きょうとグリーンファンドの活動・温暖化やエネルギーなどに関する

る情報や会員相互の親睦を図る記事を会員・一般市民に提供します。

② 各種催しに参加

環境問題・エネルギーなどに関するイベントや地域の催しに参加して活動を紹介し、理解と協力を求めます。他団体との連携も広げます。

③ ホームページなどを使った情報発信

きょうとグリーンファンドの活動状況をきめ細かく発信できるよう内容を更新します。また、Yahoo! JAPAN「Links for Good」の支援により、Yahoo! JAPAN のページ上に広告を掲載し、寄付募集やボランティア募集、イベントなど活動情報の発信に役立てます。

協力・連携

「気候ネットワーク」「環境市民」「京都府地球温暖化防止活動推進センター」「京エコロジーセンター」「京のアジェンダ21フォーラム」「京都グリーン購入ネットワーク」「KES環境機構」「国際ソロプチミスト京都ーわかば」「シェアリング・マネージメント・サービス株式会社」「中唐戸児童館運営委員会」「京都市上鳥羽北部いきいき市民活動センター」「京都御池中学校おひさまプロジェクト」以上の団体と協力・連携し活動を推進します。